

クラス担任のための Career Guidance

2011 >> VOL.5

〔キャリアガイダンス 特別編集〕

RECRUIT

現代の高校生にとって、ネットやメールはコミュニケーションに欠かせないツール。それらを教育にも活用するとすれば、どのような方法が考えられるだろうか。

「ネットやメールを活用した生徒とのコミュニケーション」

大学入試期間中は
メールで応援・進路相談

「先生、数学やらかったです。悔しくて、頭のなかぐちゃぐちゃで、涙出てくるし、どうしたらいいかわかりません。気休めでいいからなんか言葉ください」

「終わったことはジタバタしてもはじまらない。数学あきらめろ！ 酷やけど合格もあきらめろ！ 全部捨てろーみんな気持ち切り替えると言っている。私は全部捨てないと気持ち切り替えられんと思う。泣きまくって泣き疲れて朝迎える、見えるものがあると思う」

これは九州のある高校で、大学入試直後の生徒とA先生が交わしたメールのごく一部。A先生は、センター試験を翌日に控えた生徒たちに励ましのメッセージを記したプリントを配り、そこから入試が終るまで毎日、進路相談や受験の報告がメールを介して行われた。

高校生の携帯電話の所持については制限を設ける学校もあるが、現実には多くの高校生が携帯電話をもっている。生徒との連絡に使っている先生も多いだろう。A先生のように、積極的に活用すれば新しい展開を生み出せるかもしれない。

気持ちを文章にすることで
思考を整理できる

メールのよさをA先生に聞いたところ、次々とポイントが挙がった。「まず、時間や場所を選ばないこと。特に大学入試期間中は教員と生徒が離れた場所にいることも多いのですが、メールなら、地元を離れて受験する生徒を励ますこともできます。また、文章を書くという行為を通して、生徒は自分の気持ちを整理できます。メールを書き終えた段階で、相談しようとしていた迷いが晴れていることも多いようです。さらに、繰り返し読める点もメールのよさ。面談で教員が話した言葉と違い、メールの文面は読み返された分だけ

何度でも生徒を励ませるのです」
それぞれの特色を理解し
安全な活用を心がける

メールのように手軽にネット上で情報発信できるのがブログだ。私立崇徳高校（広島）の小林一成先生は、学級通信をブログ形式でネット上にアップしている（http://kobayashischool.coocan.jp/~comiblog/）。以前から印刷したもの配布していたが、持ち帰らない生徒がいるため、プリント配布に加えブログも始めた。ブログにコメント欄は設けず、意見はメールで受け付けている。ブログのコメント欄は荒れやすいため、この方式が賢明かもしれない。

ちなみに内閣府の消費動向調査によれば、パソコンの世帯普及率は07年に7割を超えている。ブログは携帯電話からも読めるので、生徒と保護者の大半がブログにアクセスする環境をもっていると考えられる。

ベースにあるのは
対面のコミュニケーション

ここまで様々なツールを紹介してきたが、言うまでもなくベースにあるのは対面のコミュニケーション。冒頭で紹介したメールは、見、刺激が強すぎるように感じられるかもしれない。しかし、日頃からA先生が生徒と信頼関係を築き、「努力した先に、合格・不合格以上の何かがある」と伝え続けていたからこそ、生徒の胸をうつメールとなっている。

先日、A先生は就職活動を終えた教員からメールを受け取った。彼女はA先生のメールを保存して何度も読み返していた。就職活動も大学入試と同じ。頑張れば採用・不採用以上のものを得られるのです。と書いてきたそうだが、軽く見られがちなデジタルのやりとりだが、上手に活用すれば、深い人間関係を築く助けになる。

学校のことを広く知ってもらったり、ネット上でコミュニケーションをはかったりするなら、ツイッターやSNSを連動させるという手がある。下段CASE1・2の2校ともブログの更新情報をツイッターに流して、そこからブログを訪れる人がかなりいると言う。ツイッター内には教育関係者も多く、彼らと直接情報交換することも可能だ。ツイッターを交流の場として活用するなら、実名で登録したほうが信頼を得やすい。SNSなら、実名登録を基本としているフェイスブックが公式に活用しやすい。

ネットサービス・スタートガイド

本文中で触れたインターネット上のサービスについて、始め方を紹介

blog(ブログ)

- ① ブログサービスは数多く提供されている。「ブログ 比較」で検索すると、各サービスの違いを説明した記事がヒットするので、参考にしながら使うサービスを選ぶ。公式にブログを開設する場合は、広告が少ないか、非表示にできる機能がある（有料オプションの場合あり）サービスを選ぶといいだろう。
- ② 選んだブログサービスを検索してアクセスし、必要事項を入力してブログ開設。
- ③ 記事の投稿は、記入欄に入力してボタンを押すだけ。写真も簡単にアップできる。

二次元バーコード

- ① サイトやブログの広報に使える二次元バーコードは、ネット上に多数ある二次元バーコード作成サイトにアドレスを入力するだけで簡単に作れる。
- ② 作成した二次元バーコードは画像として保存し、名刺などに印刷して使う。



twitter(ツイッター)

- ① [http://twitter.com]にアクセスし、黄色の「登録する」ボタンをクリック。
- ② フォームに「名前」「ユーザー名」「パスワード」「メールアドレス」を入力し、「アカウントを作成する」をクリック。名前は、漢字やひらがな、カタカナでもOK。ユーザー名はアルファベットで。頻繁に使うので、長すぎないほうがベター。名前・ユーザー名共にほかのユーザーから見られるので、本名を出したくない場合は仮名にする。あとから変更することも可能。
- ③ 2つのゆがんだ単語が表示されるので、それを入力し「登録を完了」をクリック。
- ④ 画面上の案内に従って、気になるユーザーを「フォロー」する。フォローの追加や解除は簡単にできるので、まずはどんどんフォローして、ツイッターの仕組みに馴れるとよい。

Facebook(フェイスブック)

- ① [http://www.facebook.com]にアクセスし、フォームに「姓」「名」「メールアドレス」「パスワード」「性別」「生年月日」を入力。緑の「アカウント登録」ボタンをクリックする。Facebookは実名登録が基本となっている。
 - ② 2つの単語がゆがんだ画像で表示されるので、それを入力し、緑の「登録」ボタンをクリック。
 - ③ 送られてきたメールのURLをクリックするとアカウント作成完了。画面上の案内に従って、自分のプロフィールを細かく入力し、友だちを検索する。
- ★ [http://www.facebook.com]で、「アカウント登録」ボタンの下にある「著名人、バンド、ビジネスのためにファンページを作成」をクリックすると、学校の公式ファンページを作成できる。

校長がブログを毎日更新 学校の日常を外部に伝える

〔兵庫・県立明石北高校〕

明石北高校の校長・栗岡誠司先生は、ブログ「明石北高校校長室」を毎日更新している。内容は授業や部活動など生徒の活動の様子やイベントの告知と報告など。保護者向けに始めたブログだが、話題を探してアンテナをより高く張れるようになったという自分にとってのメリットも感じている。継続の秘訣は、気負わないこと。文章は長い日もあれば短い日もある。多くの人に読んでもらうため、保護者会などで案内するほか、名刺にブログアドレスの二次元バーコードを印刷し、名刺交換をしたその場でブログを見てもらう工夫もしている。

>>POINT

- 文章は短くてもいいので、毎日必ず書く
- 校内の隅々まで目を配っていれば話題に事欠かない
- 二次元バーコードなどを活用して広報活動

明石北高校校長室の
ブログ画面と栗岡先生の名刺



インターネット 活用事例 CASE1

ブログ・ツイッター・SNSを 組み合わせて情報を発信

〔愛知・聖カピタニオ女子高校〕

聖カピタニオ女子高校は、公式サイト内で4つのブログを運営。キャリア教育についてのブログ「Mission C26」には、キャリア教育関連のお知らせのほか、卒業生のキャンパスレポートや、進路指導担当教員のメッセージも掲載している。ダイレクトに言うより記事を通して伝えたいのが、生徒が素直に受け止めてくれることもあると言う。ブログを更新すると、ツイッターとフェイスブックにある同校の公式アカウントに、自動で更新情報が掲載される。最近では、ブログがきっかけでやりとりのあった新聞記者を招き、仕事ガイダンスを行うなど、新しい展開も出てきている。

>>POINT

- 複数の教員で分担し、全体の更新頻度をあげる
- ツイッターとフェイスブックからも集客
- 単なる事実だけでなくメッセージをこめて人柄を出す

Mission C26の画面と
同校のツイッター画面



インターネット 活用事例 CASE2